



れんげそう

令和5年10月2日
福生第五小学校
学校通信第554号

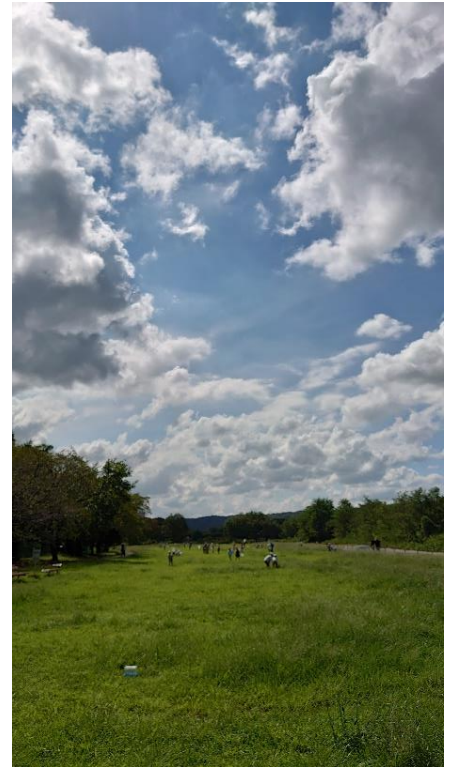
コミュニケーションの力

校長 泉田 巧人

「コミュニケーション」と聞いて、皆さんはどう思いますか。「簡単」「難しい」など様々考えはあると思いますが、ほとんどの人は、コミュニケーションは大切なことだと思っているのではないのでしょうか。広辞苑では、「社会生活を営む人間のあいだで行われる知覚や感情、思考の伝達」とされています。言い換えると、自分の考えや気持ちなどを他者に伝えたり受け取ったりすることです。コミュニケーションがうまくいかないと、自分も他者もそれぞれの考えや意思が正確に伝わらず、ストレスを感じてしまうことにつながってしまいます。学校は、学力だけではなく、社会生活に必要なコミュニケーションの力を、学校生活全体を通して身に付ける場でもあります。

さて、本校の児童を見てみると、「マジ」「ヤバい」「別に」などの単語のやり取りで会話が成立している場面を見ます。しかし、本当に自分の考えが適切に相手に伝わっているのかが疑問に思ってしまうます。例えば、「ヤバい」の言葉の使われ方には、「すごい」や「奇妙」、「大変」などの様々な意味が混在しています。そのため、受け取り方によって意味は違って捉えられる可能性があります。「あの人、ヤバい。」と言った時、「あの人、すごいな」の気持ちで言った言葉が、他者の受け取り方次第で「あの人、奇妙だな」の意味に捉えられ、正確な感情が伝わらない場合があります。このように、単語一つで複雑な感情を表現することには限界があります。また、気持ちの整理がつかない、語彙が少なく表現できない、相手の言っていることが受け止められないなど、自分の考えや感情を明確に伝えられなかったり、他者の考えや感情を理解できなかったりという現状が見られます。その結果、話し合いをする前に簡単に思い浮かぶ暴言を言ったり、言葉より先に手が出たりと、トラブルに発展してしまうことが少なくありません。

コミュニケーションは、双方向のものであり一方的だと成立しません。相手の気持ちや考えを尊重することが大切です。もちろん、コミュニケーションは言葉によってのみ成立しているわけではなく、非言語的な面も大きくかかわっていますが、本校では、言葉で自分の気持ちを適切に伝える児童になってほしいとの思いから、相手に伝える力、相手の言葉を聞く力などの言語能力を身に付けることを目指しています。授業や日常の生活場面において、「互いに気持ちを受け止め合う」「互いに共感的に理解し合う」「互いに助け合い、協力し合う」「互いの思いや考えを尊重し合う」などのコミュニケーションに必要な力を身に付ける活動を充実させ、よりよい人間関係が築けるようにしています。御家庭においても、ぜひコミュニケーションを大切にしたい関わりをもっていただけると幸いです。



1年生 虫取り
【多摩川緑地福生南公園】